

環境王国
こまつ
里山通信
旧新丸村地区

豊かな自然が残る、
信仰とともに
歩んで来た里、
旧新丸村。

環境王国こまつ里山通信 旧新丸村地区 2017年10月発行 発行：こまつ SATOYAMA 協議会 〒923-0335 石川県小松市滝ヶ原町ウ20 TEL:0761-65-2436

里山の農産物は下記にて
お買い求めいただけます。

道の駅こまつ木場潟

石川県小松市蓮代寺町ケ2-2

TEL：0761-25-1188

営業時間：8:30～18:30

(11月～3月は18:00まで)

<http://www.michinoeki-kibagata.com>



環境王国こまつ

小松市は自然環境と農業のバランスが保たれ、安心できる農産物の生産に適した環境が認められ平成23年10月に北陸三県の自治体としては初となる「環境王国」として認定されています。

詳しくは [環境王国こまつ](#) で検索

表紙写真：丸山を流れる大日川、裏表紙写真：花立村



アクセス情報

小松空港から旧新丸村地区まで車で約1時間
小松駅から旧新丸村地区まで車で約55分
羽田空港から（小松空港経由）
旧新丸村地区まで約2時間
東京駅から新幹線（金沢駅経由）
旧新丸村地区まで約3時間45分



那谷寺に移築された春木家の家屋外観

那谷寺に移築された豪農 春木家の古民家



きりづまづくりどうばんぶきつまいり
切妻造銅板葺妻入の大型の家屋

白山信仰が盛んになり越前側の禅定道の拠点、白山平泉寺が勢力を伸ばすようになると新丸村の五村には人の往来が増える。それぞれの村には世話役となった肝煎と呼ばれる豪農が生まれ、新保村には名字帯刀が許された『春木家』が屋敷を構えていた。

この民家は、永平寺の再建にあたった棟梁が三年がかりで完成させたと言われている。昭和四十年には那谷寺に移築され、現在は「普門閣（国登録有形文化財）」として櫓造りの雄大な面影をそのままに残している。



玄関の櫓の太い柱と梁がかつての春木家の栄華を偲ばせる。



丸山、花立へと向かう国道 416 号線の途中から小松市街を望む

山々に囲まれ、信仰とともに に歩いて来た里。

旧新丸村は小松市南部、大日川の最上流部の谷とその支流である杖川の谷に沿って、大倉岳、荒倉岳、大日山、五百峠、牛ヶ首峠などの山々に囲まれた場所にある。

明治の町村制施行で、新丸村となり、昭和三十一年（一九五六年）、小松市に編入されたが、編入前には、丸山、新保、須納谷（現花立町）、小原、杖（現津江町）の村落があった。新丸の村名は合併した村のうち、新保、丸山の両村に由来する。

作り、養蚕、炭焼きが主流であった。新丸村は白山山系の北西麓南端、越前との境に位置する。古くから白山信仰との関りが深く、中世、日本三霊山のひとつ白山頂上の社殿造営権を巡って戦国時代から加賀・越前・飛騨の村で争いが頻発し、明暦元年（二六五五年）には加賀・越前両藩の間で争いが起こり、徳川幕府が仲裁を行うこととなる。最終的には、加賀藩主前田綱紀の岳父保科正之の斡旋で寛文八年（一六六八年）から新丸村の五村は、白山麓十八ヶ村として幕府の天領となった。



新丸漁業協同組合の皆さんと子どもたちによる山女公開放流の様子



炭火でこんがり焼いた山女はホクホクして美味しい



子どもたちによる山女のつかみ取り



透き通るような清流の大日川

イベント情報

大日川釣りイベント（毎年7月実施）
会場：小松市丸山町下ノ橋～上ノ橋区間
TEL:0761-47-3053
時間：9:00～15:00（8:30より受付開始）
参加費：無料
対象：小学4～6年生（保護者同伴・先着30組）

が開催され、多くの家族連れなどが釣りやつかみ取りを楽しむ。この地域には民家が少なく、また生活している人も川を汚さないように意識しているのので、この川の水はそのまま飲めるほどきれい。このイベントも年々参加者が増え、イベントを機会に川釣りを始める人も多くいる。

大日川は福井県境の大日山とそれに連なる山脈に水源を発し、鳥越村河合で手取川に注ぐ手取川水系最大の支流である。毎年、漁場環境保全啓発活動の一環として丸山町の大日川では、新丸漁業協同組合主催による山女公開放流と釣りイベント

清らかな清流を求めて －丸山

絶品のキノコ



花立では山々に囲まれ水が豊富な地形を利用して椎茸やナメコの栽培が行われている。週に三、四回も通って来る橋爪実さんが楢木を切り、穴を開け、大牧さんが駒打ちをする。何しろ交通の便が悪いため市場に流通はしていないが、椎茸は肉厚で香りが良く、ナメコは艶やかで食感も旨味も最高だ。



大牧さん（左）と橋爪さん（右）。花立のこの場所一帯が昭和 53 年に公開された映画『野生の証明』のロケ地となった。今でも時折映画ファンがロケ地を訪ねてやって来るという。

平家の落人伝説の村、津江。

寿永二年（一一八三年）の倶利伽羅峠の合戦で木曾義仲に敗れた平家軍は、その後、安宅、篠原でも敗れ、平家の落ち武者は険しい山道を逃げ、杖川を渡って落ち延びたのが集落の始まりだと言われている。杖によって渡る川から杖川の名がで、杖川から杖の村名

ダム湖底に沈んだ村、小原。

大日川沿いにあった小原の歴史は古く、集落の起こりは、源平合戦の頃、平家の残党が住み着いたことが始まりと伝えられている。地名の由来は川沿いの小さな野原という意味だと思われる。歴史ある村だが、戦後の食糧難対策として平野部の農業用水確保が主目的の大日川ダム

が建設されることに伴い、昭和三十三年に離村式が行われ、全町民二百十二名はそれぞれ新天地を求めて旅立って行った。小原の集落があった場所は昭和四十三年に竣工した大日川ダムの湖底に沈んでいるが、民俗儀礼用具一八二七点は国指定文化財（小松市立博物館所蔵）となっている。



大日川ダムの湖底に沈んだ旧小原村。ダムの傍には石碑が建っている。

映画のロケ地になった 桃源郷、花立。

昭和三十一年まで須納谷と呼ばれた花立町。現在は家屋はわずかしが残っておらず、雪解け後の春から晩秋までの期間に、家屋の管理やキノコ栽培などのために十数名が通って来る山里の村だ。この地には古くから花立峠があり、那谷寺からこの峠を越えて白山登山をしていたという伝説や、村人たちが峠の頂上から白山に向かって礼拝をしていたそう。花立という町名は、白山登拝を目指して来



た人が、何かの理由で断念せざるを得なくて、この地の登拝口で「花を手向けて手を合わせて帰った」という故事に由来するとう。山に囲まれた斜面に石垣が築かれ、所々に家屋が建てられ、至るところに清らかな水が流れている。聞こえるのは鳥のさえずりと水が流れる音だけ。桃源郷という言葉に相応しい山里だ。



杖川の横をかつての津江村に至る林道大山線が通るが現在は通行止めとなっている。